

協会 地球産業研が継承有力 万博と共通の理念

経産省の
公益法人

愛・地球博（愛知万博）を運営してきた博覧会協会が今年十二月に解散した後、協会の収益金や活動を継承する団体の有力候補に財団法人地球産業文化研究所（東京都港区）が浮上していることが分かった。候補案を協会に答申する諮問委員会の意見が「環境問題への貢献など愛知万博と共通の理念で設立されており、継承団体にふさわしい」との考えにほぼ集約された。

田章一郎会長が理事、木村尚二郎総合プロデューサーが地球産業文化委員長を務めるなど結びつきが強いことや、かつての万博誘致準備委員会が博の意義やテーマについての調査を研究所に委託した実績があることから、有力候補に絞り込まれた。

約されたため。同委員会は承継団体には名古屋支部が必要としており、同研究所に支部設置を要請する方向になりそうだ。継承団体については今年一月か、有識者七人の基本理念継承発展検討委が議論。公益法人見直しが進む中、新たな公益法人の設立は適当ではないとして、既存団体を検討していた。

複数の候補が挙がる中で、同研究所は協会の豊在り方などについての調査研究や提言をする。温暖化防止のための国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）には毎年出席者を派遣している。



地球産業文化研究所

1988年に設立された経産省所管の公益法人。地球規模での環境・資源問題や国際システムの在り方、経済と社会の一

検討委は二十七日の委員会で協会に候補案を答申する予定だったが、なお調整が必要な部分があり、答申の時期は五月以降に持ち越されそうな情勢だ。
協会は解散後、会計処理のため清算法人として

来年三月末まで存続するが、万博の収益金のうち半分の六十四億五千万円を継承団体が引き継ぐ。

2006.7.22 中日朝刊